

## 『関西学界展望』の著者は誰ぞ

大阪大学大学院高等司法研究科教授 小野 博司

『関西学界展望』（文友堂、1938年）は、『夕刊大阪新聞』に連載された関西の大学教授たちの評判記を纏めたものである<sup>1</sup>。この中では、滝川事件、天皇機関説事件という大波に襲われた後の京都帝大系の法学者たちの姿が多く活写されており、この時期の彼らについて調べる際には必ず手が伸びる一冊である。しかし、一部でよく読まれているわりに、著者の「林純平」が何者かは、知られていない。谷沢永一は、吉野作造門下の経済学者・住谷悦治と推測しているが<sup>2</sup>、正しくは、夕刊大阪新聞記者の林純平こと、崔演鳳である。書誌学者として名高い谷沢も導き出せなかった答えに最初に辿り着いたのは、神戸大学法学部出身で、実業界で活躍した湯浅正雄（昭和14年生）であろう<sup>3</sup>（山口誓子は著書の中で林が朝鮮出身で神戸商業大学の卒業生であると記しているが<sup>4</sup>、林が崔であることまでは言及していない）。しかし、これが記されたのは私家本草稿<sup>5</sup>であり、またこの中では、崔の経歴を十分明らかにしていない<sup>6</sup>。詳細は他日に譲るが、本小論で簡単に紹介しておく。

崔演鳳は、隆熙3（1909）年10月16日、江原道江陵郡で農業を営む崔龍俊の長男として生まれた<sup>7</sup>。京城中東学校、延禧専門学校商科で学んだ後、神戸商業大学に進学した崔は、商業政策科の瀧谷善一のゼミで学んだ<sup>8</sup>（卒業論文は、「国際貿易政策史概観」<sup>9</sup>）。他方新聞部のマネージャーとして、『神戸商大新聞』に多くの記事を書いた。また昭和12年から、同窓会誌である『凌霜』の編集も担当した<sup>10</sup>。なおこれらの記事は、崔鎮元又は林純平名義で執筆された。湯浅の調査によれば、『神戸商大新聞』には、崔名義で書かれた記事が10本、林名義のものが16本ある。また『凌霜』には、林名義で29本の記事を書いた。これらの中には、教授の評判記がいくつも含まれており、学生時代から彼の得意分野だったことがわかる。

<sup>1</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1440522>〉（最終閲覧日：令和6年3月14日）。

<sup>2</sup> 谷沢永一「大阪近代出版史文壇史参考文献目録」『大阪府立図書館紀要』（10）（1974年）58頁。

<sup>3</sup> 湯浅の経歴は、湯浅正雄「湯浅正雄 略年譜」『自分のこと 時代のこと 世界のこと～永遠の学校新聞記者気分て綴る自分史～』（みずほ出版、2010年）441-443頁を参照。

<sup>4</sup> 山口誓子「秀句鑑賞」『鑑賞の書』（東京美術、1974年）197頁。

<sup>5</sup> 湯浅正雄『戦前日本の多くの知識人に認められた 「神戸商大新聞」の伝説の編集者 崔鎮元／林純平の仕事の辿る』（神戸大学大学文書史料室所蔵・20165040001XXXX）。いつ執筆されたかは記されていないが、寄贈されたのは2015年であり、その直前まで執筆されていたと推測する。

<sup>6</sup> 同書は5部構成で、第1部から第4部は、崔が執筆した記事や司会を務めた座談会を再録し、湯浅が解説を加えている。「新聞・雑誌の編集者としての林 純平氏」と題された第5部で、崔に関する論考を用意していたと推測されるが、本文は記されていない。

<sup>7</sup> 神戸大学大学文書史料室所蔵『昭和八年度入学者 入学願書綴』（201020505620000）。

<sup>8</sup> 神戸大学大学文書史料室所蔵『第五回 成績証明書』（201020506260000）。

<sup>9</sup> 神戸大学大学文書史料室所蔵『昭和十年度（第五回生） 論文整理簿』（201020506440000）。

<sup>10</sup> 文理山人「編集余言」『凌霜』（82）（1937年）88頁。

昭和 11 年に大学を卒業した崔は、夕刊大阪新聞社に入社した<sup>11</sup>。この時期に交流が始まった俳人・山口誓子によれば、結婚の媒酌人は、法学者・佐々木惣一が務めた<sup>12</sup>。崔は、大学時代に佐々木の授業を聞いており、『関西学界展望』でも、西田幾多郎に続いて 2 番目に取り上げている。指導教官の瀧谷に頼まなかった理由は不明だが、佐々木を深く尊敬していたことは間違いない。

戦後は朝鮮に戻り、檀紀 4285（1952）年には、江原道三陟邑に本社を持つ東洋化学公社の釜山出張所に勤務していた<sup>13</sup>。いつ亡くなったのかはわからないが、昭和 42 年の同窓会名簿では物故者となっている<sup>14</sup>。

（執筆者紹介）小野 博司（おの ひろし）

博士（法学）大阪大学。専門は近代日本法制史。近時の主な業績は、『近代日本の行政争訟制度』（大阪大学出版会、2022 年）。『大警視だより』には、続刊第 17 号（2023 年）に「行政争訟制度史研究の課題—埼玉県における訴願裁決事例の紹介をかねて—」を、続刊第 18 号（2024 年）に「五十而知天命—「外地法制誌」と中村渉—」を寄稿。

\*\*\*\*\*

『大警視だより』些論…⑩

### 遠くに踏み出す一歩

「寒い寒い、早く暖かくなならないものか」と冬の間心待ちにしていた春が過ぎ去り、本格的な夏がそこまでやってきました。季節の移ろいは、いつの間にか、そして時にあっという間に訪れます。

春から夏にかけては、新学期・新年度の季節に設定した目標に向かって進んでいく一つひとつのステップの最初のチェックポイントと言えるのではないのでしょうか。

「人は目標として掲げた地点よりも上に到達することはない」と言われます。目標は、大きくなければなりません。海外へ行くために空港に向かう一歩も、近所のコンビニに行く一歩も、見かけは同じですが、意味合いが異なります。大きな目標に向かって進むその一歩が持つエネルギーは大きく、簡単には折れません。

「大きな一歩」などと言いますが、人間の行動力や強さといったものは、そんなところにあると思えます。そこで改めて、国民の安心・安全を守るという大きな任務を日々遂行されている警察官の皆さん方に、深い敬意を禁じ得ません。

私、「ちょっとそこまで」と言ってなかなか帰らずに、周囲に迷惑をかけています。  
(影法師)

<sup>11</sup> 神戸商業大学編『神戸商業大学一覽 昭和十二年三月』（1937 年）414 頁。

<sup>12</sup> 山口・前掲注（4）197 頁。

<sup>13</sup> 「会員勤務先、住所異動等」『凌霜』復刊（10）（1952 年）38 頁。

<sup>14</sup> 『1967 年 10 月版 社団法人凌霜会会員名簿』（社団法人凌霜会、1967 年）241 頁。